

御池岳

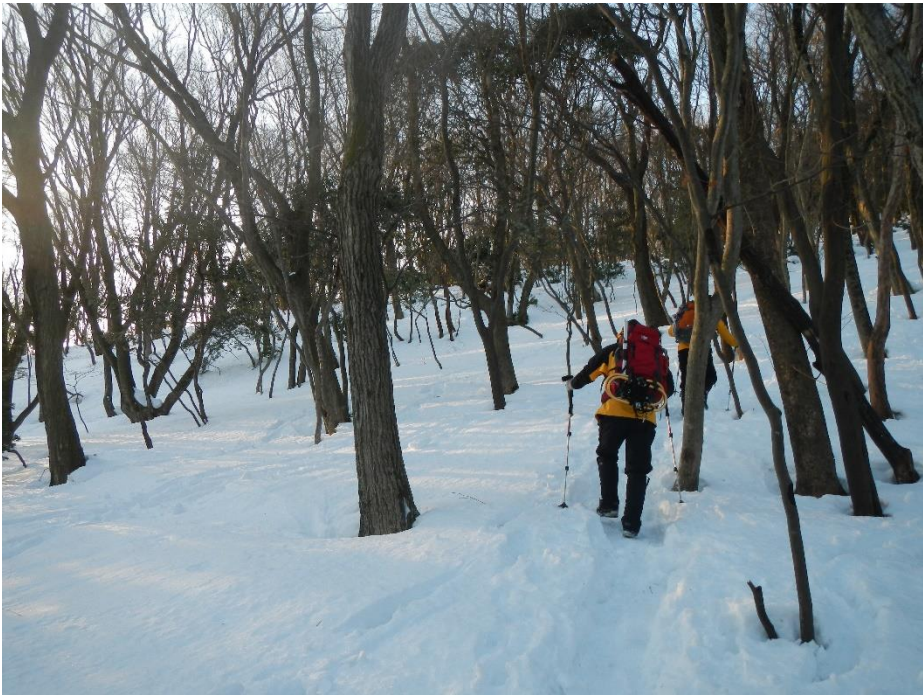
日程 2017年1月29日(日)

メンバー L 磯部 S、手塚、岩川(記)

今回の目的地の御池岳は鈴鹿山脈の中の一つだ。日本海側の気候の影響を受ける鈴鹿山脈は標高が低いにも関わらず雪が降ることで知られている。今年に入り御池岳にも多くの雪が降った。そして、1月半ばの大雪で1m以上の積雪があるとの情報を受けLの磯部さんがラッセル山行を計画してくれた。

前日に、登山口からすぐの藤原簡易駐車場に入り睡眠をとった。ここでは自動ドアで入れる案内所のような場所があり、なんと畳も完備されている。非常に良い眠りだった。

当日は、夜明けを待ってスタートをした。出だしからラッセルを期待してはいたが、しっかりとトレースのついた道を登って行くことになる。



トレースを辿る

白船峠までは、トレースと赤テープを辿っていった。曇天予報だった空は、青く澄み切り軽快に足を進める。白船峠に着くと尾根に沿ってトレースが伸びていた。人は意外と入っているようだ。目の前には御池岳のテーブルランドがそびえていた。

私たちが向かう真ノ谷に目を移すと、トレースのない雪に覆われた樹林が待ち構えていた。トレースのない道を見て、躍動してくる気持ちを抑えきれずリーダーは満面の笑みを浮かべる。さっそくワカンに履き替える。そして「よーしっ」という一声と共に谷を駆け下りていく。



雪と戯れるリーダー

150mの下りはあっという間だった。誰にも踏まれていない雪の上を駆け下りるのは爽快だ。だがしかし、下るということは、ここを登り返さなければならない。ふとそんなことを思ったが、とりえず考えるのはやめた。

真ノ谷を下りきるとあとはテーブルランドへの直登のみである。そして、

ここからは待ちに待ったラッセルだ。すでに別パーティーがつけたトレースはあったが、そのトレースを無視してラッセル開始。雪の深さは膝くらいと決して深くはなかったが、湿った雪がワカンにまとわりつき、一步出すごとに錘を持ち上げているようだった。

そうこうしているうちに、空には雲が広がり、引き返しのタイムリミットが迫っていた。何とか稜線までは出ようと、汗だくになりながら気合いでラッセルを続ける。そして、ようやく稜線にでた。眼前に真っ白な雪原が広がる。その雪原に立つ一本の木がなんとも印象的だった。



雪原

300mの登りは思いの外ハードだった。やはり、まだまだ登りは苦手である。それでも、テーブルランドの眺めは最高だった。あんな景色が広がっているのであれば、ラッセルも悪くない。

記 岩川